

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105920		
法人名	有限会社 和(なごみ)		
事業所名	グループホーム やすらぎ東古松		
所在地	岡山市北区東古松南町4-35		
自己評価作成日	令和 5 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分の親が安心して預けられるグループホーム。そして入居していてバックを支えている家族も将来入りたいと予約したいホーム。現在入居している方々に感謝されるホーム。(地区の小学生が取材に訪れた時「こんな所が一杯増えたら家族も楽で私も楽しいのになあ」と入居者が言っていた。)
そして退去後も家族の方が訪れるホームです。又、介護度が良くなって、小規模多機能施設に移って頂く例もあります。目標達成計画に掲げて取り組んできた「家族との連携」や「共用空間の活用」も目標を達成することができた。花壇には四季の花を楽しめるよう配慮している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3370105920-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 11 月 27 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関にある額縁には「家」とあり、それは管理者の、「親を入れて安心できる施設に」という熱い思いを表す一文字となっている。最初は、管理者が母の介護ができるようにと作られたのが、この施設であるのだが、「家」で過ごしているように、現在でも利用者たちは、寛いで過ごしている様子が窺えた。床暖房のリビングで、日中は、利用者のほとんどの方が過ごし、職員と話をしたり、塗り絵や、脳トレを個別のレベルにあった教材でいそしんでいた姿があった。食事には、1日に30品目の食品を組み入れたメニューを提供し、ポータブルトイレを一切使わず、トイレで排泄ができるように、細やかな配慮をして声掛けをするなど、利用者への思いやりの心が、寄り添った介護に繋がっている。家族との外出や、地域の夏祭りなどの行事に参加したり、近所の馴染みの喫茶店に、コロナ感染対策をした上でドライブしたりして、利用者が、少しでも快適に毎日を過ごせるように視野を広げて、管理者や職員が努めている。職員からも管理者の厳しくも優しいアドバイスと、利用者からの「ありがとう」の言葉が、やりがいとなっているとの声が聞けた。家族が安心して、利用者も「家」にいるように過ごせる環境作りが継続されている温かい施設であった。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のみならず往診に来て下さっているドクターが将来はこのホームに入りたいと言って下さっているし、近くの住民も「入る様になったら入れて下さいね」と言っている。	玄関に「家」と一文字が書かれた額が飾っており、管理者の”親を入れて安心できる施設に”という思いで掲げられている。常日ごろから、職員に管理者はこのモットーを語り、意識づけに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人達が時々庭になっている柿や野菜の差し入れをして下さったり、犬や猫と一緒にホームに立ち寄って下さる。又、町内の行事と一緒に参加して顔馴染みとなっている。	町内会長や地域の方との交流があり、回覧板などで地域の情報は入ってくる。近隣の方から、芋や柿などの旬の野菜や果物の差し入れがあり、食卓に並ぶ事が多々ある。ボランティアで、介護の手伝いをしてくれる方もいる。夏祭りやお餅つきなどの町内行事へも参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者が自由に集える場所として近くの集会所で月2回集い、町内会長や民生委員も自発的に参加して下さっている。良い雰囲気(雀の会)に出席し、管理者はいなくてはならない存在となっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回催される会議は町内会長、民生委員、包括の方、家族の方、地域の人達が出席、情報交換しており、ホームを見学して少し体験して頂く様に地域の人にもおすすめしている。	町内会長、地域の方数名が参加し、対面で行っている。地域包括支援センターは参加は依頼しているが、参加されていない。介護保険や、生活保護について話し合ったりしている。	会議を活かし、更に意見を聴取する工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは地理的に近く(同じ小学校区)でもあるので度々密に連絡を取っており、担当者とは全てにおいて把握して頂いている。	窓口は代表、もしくは管理者がしている。直接会って、相談や指導を仰ぐことが多い。補助金申請などについて、丁寧に相談にのってくれる密な関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に施錠しておらずドアホンをしていないでいきなりドアを開いて訪問される事も多い。身体拘束は一切ない。	身体拘束はしていない。玄関は施錠しておらず、職員の見守りの体制を大切にしている。利用者が、外に出たがるときは、近隣を職員と一緒に散歩して、気分転換を図るような工夫をしている。管理者が職員の行動で気になることがあれば、その都度アドバイスや注意をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており理解納得が得られていると思っている。以前経済的虐待と思われる例があり行政に届けた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は常に学ぶ機会を持ち、近隣のグループホームや小規模多機能施設の管理者とも連絡を取り情報を交換している。又、それらを活用出来る様に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	いつもかなりの時間をかけて十分な説明を行っており、理解納得が得られていると思っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者も職員もあらゆる方向にアンテナをはり情報を共有し運営に反映させている。又家族にも出来るだけホームを訪問して頂ける様こまめに電話やメールをして情報を流す様にしている。月1度はホームに来て頂き面会して頂く様に頼んでいる。	家族からは、面会時や電話の際に話を聞くようにしているが、感謝の言葉を頂くことが多い。利用者の、麺が食べたいなどの要望も可能な限り対応している。管理者が利用者の立場に立った献立や、食事の量などを配慮するように努めている。	家族からの意見や要望を言って頂けるように、更なる工夫を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々に意見や提案を聞いてその都度すみやかに反映させている。又、時々外でお茶や食事をしながらのミーティングもして話しやすい雰囲気も作っている。	管理者は、職員の様子にも気を配り、意見や要望を聞くように努めている。職員から、パットの使用方法について発案があり、利用者のより良いケアにつながったことがある。職員の休暇も取れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ休日等の条件を十二分に取り入れるように管理者は努めている。個々の職員が力を出し切れる様に職場環境条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人個人が研修で学んだ事を職員が職場で発揮できる様工夫したり、より深くかかわれるように管理者が注意していくよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームやデイサービス、小規模多機能の施設の方のネットワークで助け合ったり教え合ったりお互いに協力している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してからかなりの時間、特別に余分な人員を配置して早く慣れて頂く様配慮している。本人が希望する事は出来るだけ受け入れて差し上げ、家族との電話や喫茶店で会ったりして不安を和らげている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には家族に頻繁に電話等で連絡を入れ状況報告をして不安をなくす様に努めている。又細かい事でもこまめに情報を電話やメールで入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人が今一番望んでいるサービスを家族の身になって対応に努めている。例えば内科・皮膚科・歯科、整形外科、耳鼻科の診察は家族の代わりに支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべくして差し上げるのではなく自分のやれる事を尊重して見守りさせて頂いている。例えば洗濯畳など出来ない人でも支援しながら一緒に手伝ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と頻りに連絡をとり、共に見守ろうと呼びかけている。又誕生日などには家族も一緒に祝いの席について頂ける様頼んだりしている。しかし、一昨年はコロナ禍の為中止している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が来やすい様に支援。又、連れ出して頂いて関係継続が途切れない様にしている。又、連れ出しが難しい家族に代わってこちらからドライブ等連れ出して馴染みの人達に会える様配慮している。	リビングでは、一つの屋根の下で仲良く過ごしていて、利用者だけでなく、訪れた方がすぐ馴染みの関係となっている。面会は予約制だが、対面でできていて、面会の家族ともすぐ馴染みの関係となっている。家族との外出や、外泊も可能としている。施設近くの、馴染みの喫茶店に行くことも楽しみの一つである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆と一緒に歌を歌ったりして楽しんだり個々が好きな事をして頂いて個人を尊重している。(例えば塗り絵、ジクソーパーズル、計算ドリルなど)		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻ったり他の施設に移っても訪問してその後の様子を確認している。他の施設に移って亡くなった方も一緒に葬儀の手伝いもさせて頂いている。その後も家族が盆や暮れに訪ねて来て下さっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を取り入れ、それに添う様努力している。例えば家事が得意な人には洗濯畳みやおやつ作り等を手伝って頂いたり、そうでない人は脳の刺激となるジクソーパーズルや計算ドリル・数字盤、ぬり絵をして楽しんで頂いている。	利用者個々の希望や、好みなどを日ごろの生活からくみ取り、レクリエーション活動や、日中の活動に取り入れるようにしている。発語が困難な利用者には、表情やしぐさから何がしたいのかをくみ取り、医師とも相談して、利用者の最善な環境となるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から出来るだけ詳しく聞き取り、それらに合わせて好き嫌いもなるべく希望に添う様にしているが、いつの間にか嫌いなものも無くなっていて家族もびっくりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の体調に合わせてなるべく活動的に過ごして頂く様努力している。朝は毎日室内で体操・風船バレー等で体を動かしたり、今はコロナ禍で散歩は休んでいるが、日中はなるべく起きて頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの家族、本人の意見を尊重、職員とディスカッションをしてそれらを反映して介護計画を作成している。	管理者がケアマネジャーを兼ねている。介護計画は、入所後、何もなければ、1か月、3か月、半年で見直しを行っている。医師や職員の意見を取り入れ、日常生活を見ながら、利用者のためのより良いケアに繋げて作成している。介護サービス計画書の短期目標は3か月、長期目標は6か月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の共有でその都度気付いた事は連絡ノートや会議録で詳しく情報が共有され、密に連絡を取って介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の都合で対応出来ない様な時でも管理者がそれを補いサポートしている。例えば入院しても毎日病院に顔を出し、洗濯物はホームで洗って病院に持って行ったり、通院もホーム側ですることが多い。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として2カ月に1度ぐらいある町内の行事にも積極的に参加しており町内の一員としての役割を楽しんでいる。例えば地域の盆踊り・お祭り・もちつきに入居者も参加している。しかし、2020年、2021年はコロナで皆中止となった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは深夜でも携帯で連絡が出来、安心して任せられ適切な医療を受けられている。ホーム側からも密に連絡してどんな症状も見逃さず共有している。	かかりつけ医は月2回訪問診療があり、24時間対応で、相談しやすい関係ができています。歯科は、必要があれば訪問診療してくれ、利用者は納得がいく診察となっている。他科への受診は、基本、管理者が付き添っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、訪問看護師に入って頂いており、ドクターと連絡を取りながら即行動が出来る。例えば薬が変わったりした時など副作用の出力に注意して観察。ドクターと密に協力して処置出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は家族以上に病院とは密に連絡を取り、家族に代わって洗濯物の交換等ホームで行っており、主治医からも家族と同様に扱ってくれて家族と同様に情報を流して下さっている。送迎も家族が無理な時はホームでしている。しかし、2020年、2021年はコロナで病院に入れてくれないので気をもむのみであった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化して自分で食事が出来なくてもホームで職員が補助して食して頂き、ホームでの看取りも経験して職員も自信をつけている。若年アルツハイマーの方も急速に進んだが、特養への入居ができた。	入所時に重要事項説明書で、家族には説明確認しているが、重度化したときに、医師のアドバイスのもと、再度意向の確認をしている。看取りは、家族の希望があればしているが、利用者の状態により、病院や特別養護老人ホームへ移ることもある。近年では2名看取ったが、夜間は代表が対応した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ドクターの指示を仰ぎ救急車が来るまでパントタッチが出来る様血圧等色々な情報がすぐ届けられる様職員も訓練出来る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	すべての部屋より出口に直結しているので迷わず時々の訓練と同じに避難できる。年2回の訓練では短時間で避難出来ており、体の不自由な人には職員が付き、自分一人で避難出来る人は声かけしながら訓練している。又水害の時の為近くのマンションとも話が出来る。	年2回の訓練は、利用者参加のもと昼夜想定で行っている。水消火器の訓練も職員は行っている。水害時の避難場所として、近隣のマンションと話し合っ、利用させて頂くようにしている。緊急連絡網は、管理者と代表が携帯電話で連絡管理している。備蓄は、水、米、お菓子、冷凍食品など、1週間分施設内に準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は年長者に教えて頂く様に誇りを損なわない様声かけをしたり又なるべく昔の元気だった頃得意だった事を聞いて自信を取り戻してもらっている。	居室に入るときには、ノックして言葉掛けをしている。呼称は、苗字に、さん付けで呼んでいる。排泄失敗時には、さりげなく言葉掛けをして、トイレやお風呂に誘導し対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの様にしてもらいたいとか時々希望を聞いたり喫茶店等にも連れ出したりしている。時々、うどんやラーメン等、食べたい物を聞き出し作成している。外食も時々行い、楽しんで頂いている。しかし、2020年、2021年はコロナで実施できなかった。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出が出来ない人が多くなっているため、時々庭に出て、日光浴をして頂いたりもする。又、家族と一緒に出かけたりしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今日はどんな服が良いのか個々に聞き、選んでもらったり時々マニキュアやお化粧品も職員が手伝ってさせて頂くととても楽しそうにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい食事は味はもちろん色でも楽しんで頂き、希望を聞いて希望に添った献立にしたりしている。毎月1日は赤飯、行事会はお寿司で御馳走を作っている。又誕生日などは家族と一緒に会食して頂いている。(コロナの間は中止していた)	食事は3食手作りで、1日に30品目の食材を使ったメニューを提供している。そのためか、白髪が黒髪になった利用者もいる。誕生日には、お寿司、お刺身、茶碗蒸しが定番メニューで、ケーキを自分たちでデコレーションして楽しんでいる。利用者からも、量や味付けがちょうどよくて、おいしいとの声が聞けた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をなるべく多く取って頂ける様三度の食事以外にも10時・15時のおやつ以外にも常に水分が摂れるようにコップが側にあり、度々口にして頂く。栄養士も居て、栄養的には1日に30品目を摂取出来るのを目安にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて口腔ケアを行っており、その都度入れ歯のチェックも行っている。又週1度は入れ歯洗浄液で清潔を心がけている。又、自分でケアが難しい人には家族の了承を得て、訪問歯科も利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを職員が把握して声かけして全員トイレに誘導しており失敗を極力少なくしている。入居の時紙パンツだったのが布パンツに改善された例もある。	排泄チェックシートを活用して、言葉掛けをして誘導することで、失敗は減っている。ポータブルトイレは一切使わず、タイミングを見計らって言葉掛けをして、極力、トイレでの排泄を誘導している。夜間も、個人に合わせて安眠できるように対処している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や水分摂取の他、便が出易くする薬でこまめに調節出来ているので個々に排便で困る事は殆どない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日の入浴が望ましいが隔日か隔々日には必ず入浴。ゆったりしたい人には個々にそって歌を歌ったり楽しくおしゃべりしながら入っている。	入浴は週3回、午後に提供している。ゆず湯をして、季節を感じる工夫をしている。浴槽にも利用者全員が、現在は入ることができ、ゆったりとした時間が持っている。入浴を嫌がる利用者には、“一緒に行こう”と管理者が言葉を掛けて入浴を勧める工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもベットで休息出来るがなるべく日中はリビングで過ごして頂く。夜は安眠出来ていて昼夜逆転する様な事はない。もしその兆候があればドクターと連絡を取って軽い眠剤で殆ど解決しており基本的には薬は少なくしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクターと密に連絡を取りながら用量も抜いたり追加したりと変化に応じて支援している。症状の変化には管理者に即報告があり、ドクターより受診の必要があればすぐ連れて行き診察して頂く。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	町内の行事に参加したり誕生会や外食・お花見等きつならない様に気を配りながら支援している(2020年、2021年は中止していた)。又、ジグソーパズル、計算ドリル等で達成感も味わって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内行事にも積極的に参加し顔馴染みとなっている。喫茶店・病院への外出も家族同様に支援している。家族の祝事や法事等も積極的に(ホームで送り迎えをしたりして)出席出来る様支援している。	家族との外出や、外泊をすることができる。町内の夏祭りに参加し、焼きそばなど、屋台の食事を楽しんだ。近くの公園に春には花見に行った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	車で来るパン屋さんから好きなパンを買って頂きホームで支払いしている。すべてホームの食費として支払い、本人からは頂いていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話がしたい時は電話をかけて頂いたり手紙を書いたものをポストに入れたり支援している。又かかってきた電話も電話口に出て頂く様にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎にリビングを飾りその飾り物も一緒に作成したりしている。花々も庭に植えたり室内に生けている。夏には庭に野菜も植えて実りの楽しさを味わって頂いている。	利用者は、日中はほとんどリビングでテレビを見たり、塗り絵や、個別のレベルにあった脳トレなどをして過ごしている。床暖房を取り入れ、快適な環境となっている。壁面には、職員と利用者が一緒に作成した、折り紙の作品が飾られ、季節が感じられる。利用者の笑顔の写真もあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じテーブルの人との話で職員は見守りして話に花が咲いている時は聞き役に徹している。又、一人になりたい人は自室に入ってテレビを見たりして一人を楽しんで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の家で使っていた物を持ちこんで頂き安心して居室で過ごして頂ける様に支援している。読書の本、趣味の本など家族も自由に差し入れている。又仏壇の持ち込みもされている方もいた。	備え付けは、ベッド、布団、エアコン、タンス、照明、カーテン。トイレとつながっている居室が2部屋ある。朝、職員が清掃をしていて、清潔感があふれる。家族の写真を飾ったり、テレビを見て寛いだりする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員に余力がある様に設備してゆったり見守りが出来ている。余りこちらが手を出さず、なるべく時間はかかっても自立に近づけている。又トイレには「トイレ」と書き「洗面所」や各個室に名前を書いて判り易くしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				